

文化 Culture



11月 阿部公彦

今、国語教育に注目が集まっています。発端は紅野謙介さんの『国語教育の危機』(ちくま新書)。2020年度から始まる大学入学共通テストや、新設置の『論理国語』なる科目への疑念を表明しています。

▽錯誤

いったい何が問題なのか。改革の狙いは情報を理解する『読解力』の鍛錬です。近頃の子供は、教科書さえ読めない。それなら『論理的で実用的な文章』を読ませよう、というのが、しかし、この単純明快な『論理』には落とし穴があります。

言葉と人間の世界では、論理は決してむき出しの形では存在しません。言葉はその運用を通して必ず『色』がつく。だから私たちは、人間の思惑やレトリックの中から論理を見極め、その妥当性を判断する。国語で鍛えたいのはここです。論理は必ず人間とセット。

新科目「論理国語」に疑念

紅野謙介

上田岳弘

虚無への想像力で展開

と「実用性」と資料らしさにこだわり、結果的に「人間」を排除します。批判を受けて若干の修正も見えますが、迷走ぶりは顕著。「論理」の理解があまりに一面的です。たしかに法律や役所の文言は合理的に練られています。でも、特定の用途のため「仕方なく」そう書かれているにすぎない。わざわざ高校生に読ませたいでしょうか。それに会議の報告書、料理のレシピ、野球のスコアなど、用途が異なれば合理性の作法は変わります。

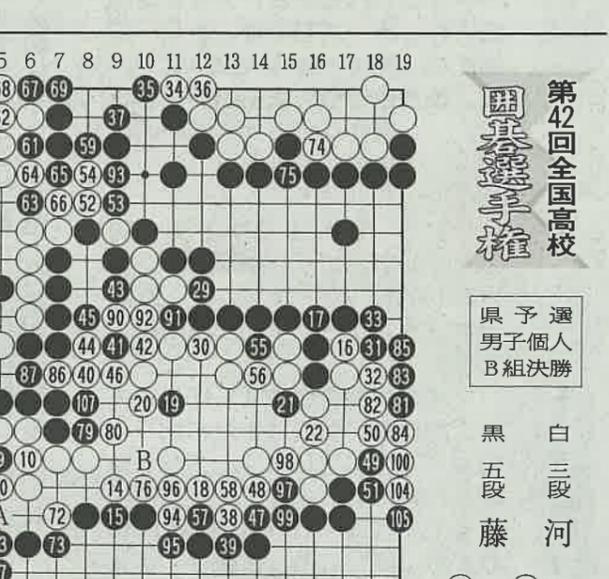
まさか高校生のうちに「実用の作法」がすべて習得できるわけがない。結局、試験で「実用風文書の定番」が幅をきかせるだけでしょう。「実用英語」と同じ錯誤です。人は主張や欲望を正当化しようとするもの。論理はしばしば「つじつま」と化し、読者を欺きます。他方、厄介なことに、人間は論理が破綻した文言にも「意味」を讀んでしまふ。飛躍がかえってインパクトを生むこともある。「日本死ぬ」が良い例でした。だから肝心なのは、効果、意図、文脈の働きを理解し、「つじつま」との付き合い方を学ぶことです。それが国語の役割でしょう。

▽境界

文科省は周回遅れなのかもしれない。そんな小説です。

▽ずれ

高橋弘希さんの『アジサイ』(新潮)12月号)は、ある日突然妻に出ていかれる話。庭に咲いたアジサイが「水彩絵具で彩色した、偽物に見える。ささげまなずれ」を抱えた主人公の等身大の当惑は、やわらかい滑稽さとともにきめこまかく描かれます。でも妻をめぐる謎は未解決。アジサイの神秘的な香りにのみこまれて物語は終わります。



第3譜 (101~207) (6目半コミ出し)



絵・片山高志

この紀子と、中本の同僚で小説家志望の荷室仁(愛称「ニムロッド」)の想像・妄想世界がやがて重なります。航空機開発のこぼれ話や仮想通貨といった話題には「理系」の匂いも感じられます。SFと純文学の境界をまたいできた上田さんならではの書きぶりです。しかし、ドライで軽妙な展開の底に、虚無への想像力が動く。無と有の境界をめぐります。書けないものだからこそ書きた

て「そつじつま」企画がアートになるというような考えを持っていて」と語っていました。つまり、「作品を売る」運動自体が、佐々木さんにとっての作品だったのです。「反芸術」の作品と比して、一見興味ではあるものの、その思考は当時としても極めて急進的なものでした。「作品を売る」

反権力の美術

佐々木耕成回顧展

日用品と同等のモノに

佐々木耕成さんと初めてお会いしたのは、今から4年前。場所は群馬の山奥にあるアトリエでした。薄く

れまます。60年安保闘争の余波冷めやらぬ中、美術家た

ちは権力への抵抗として、ゴミや日用品を用いた作品

を数多く発表。その中から

ける「反芸術」の姿でした。

1964年、佐々木さんが参加した「ジャックの

代は、作品を「商品」として「売る」運動を実施し

として、その思考は当時

大きな首輪をつけた小柄な

「ショー」

権力的な高貴文化から解き

ます。作品を「商品」として

「売る」運動を実施し

として、その思考は当時

として、その思考は当時

として、その思考は当時

第42回全国高校囲碁選手権

選予 白 三段 河野圭吾 (マリスト高一) 川浩希 (学園大付高2年)

Table with 9 columns and 9 rows showing a Go board position. Labels include '第54回 県アマ棋王戦' and '第1譜 (図は△3四歩までの局面)'.

第54回 県アマ棋王戦 決勝1回 2 五段 坪井祐二

Table with 9 columns and 9 rows showing a Go board position. Labels include '第54回 県アマ棋王戦' and '第2譜 (図は△3四歩までの局面)'.

第54回 県アマ棋王戦 決勝2回 1 五段 山田晃寛

揺れる半目勝負 この時点、まだ白がわずかに残る形勢。白6の受けは黒12に備えた受けだが、黒7の切りに白8は仕方ない。白8を白11とツゲば、黒10、黒A、白12の後、黒Bとされて困る。白18と用心深く守ったのが、黒にチャンスが回って来たが、黒19は手にならず痛手持ち込み。黒19では黒33が急務で、54に回って半目勝負。